

戦後、食料不足のために入植・開拓された高野尻集落の開拓60周年記念祝賀会が1月14日、同集落の自治会館で開かれ、出席した約50人の住民らがこれまでの歩みを振り返りながらさらなる発展を誓い合いました。

高野尻地区は、かつては「掛泥野」と呼ばれた採草地。戦後の食料不足は深刻で、当時の綴子村は原野を開放し、開拓部落「昭和」と「高野尻」を作りました。

しかし高野尻は、もともと農耕に適さない土地とされていたこともあり、「豆や小豆栽培が中心だった開墾は困難を極めました。」

そのため、昭和31年には高野尻、太田、糠沢地区の43人で土地改良区が設立され開田事業が始まりました（同39年完成）。その後、昭和43年から45年にかけて、鷹巣町が町営住宅を建設したことから人口も増加、現在は高野尻自治会（村上祐治会長、47世帯）と市営高野尻団地自治会（小林末松会長、40世帯）で集落を構成しています。

祝賀会には、両自治会から約50人が出席。はじめに主催者を代表して村上会長があいさつ。「入植・開拓が始まって60周年を迎えることができました。入植当時、開拓にはたいへんな苦労があったと聞く。10年ほど前から両集落が一緒になって万灯火（まとび）を行っているが、『高野尻といえは万灯火』といわれ

さらなる発展を誓い合う

高野尻集落が開拓60周年

るほど定着し、住民の絆も深まっている。今後も集落発展のためご支援を」と、協力を求めました。

また来賓の久留嶋正雄・市総務部長が、「先人の偉業を引き継ぎ、さらなる発展に向けてがんばってほしい」と祝辞。この後の懇談では、「思い出を語る」と題して3人の開拓者が体験談を披露。このうち村上ミヤエさん（82）は、「当時、一帯は木の切り株だらけの原野。豆や大豆を植えたが草取りもたいへんだった。当初はランプ生活だったが、その後電気が引かれ、電灯がついたときはうれしかった」と、当時の苦労を語っていました。

このあと出席者は、開拓当時の思い出を語り合いながら60周年を祝い合いました。



▲開拓60周年を祝い合った高野尻集落の皆さん

「情熱は可能性を生み出す」

登山家・小松由佳さんが講演

世界第2の高峰「K2（標高8611m）」の日本人女性初の登頂者となった秋田市出身の登山家小松由佳さん（24）の講演会「K2の空をめざして」（鷹巣北都会主催）が1月19日、市文化会館で開催され、満場の市民らが、人生をかけて冒険にチャレンジした小松さんの話にじつくりと耳を傾けました。

小松さんは、K2登山のようすをスライドを使いながら紹介。「多くのクライマーが挑戦し、2割以上の人が生きて戻れない」困難な山に挑み、雪崩や落石などの困難を乗り越えて登頂に成功した体験談に聴衆も感銘を受けていました。



▲「情熱は夢を実現する可能性を生み出す」と小松さん



ゴミの分別についてご協力をお願いします！

古紙類は、新聞紙・雑誌・ダンボールの3種類に分けて排出してください！

古紙類を排出する際、一部の地区では新聞紙・雑誌・ダンボールが3種類に分別されず、混入された状態で排出されているようです。

古紙類は貴重なリサイクルの資源となっているだけでなく、有価物として売却出来るので、市の貴重な財源にもなっています。

また、古紙類は種類によって、それぞれ違う用途の紙製品に再生されるため、新聞紙・雑誌・ダンボールの3種類に「分別」することはとても重要であり、より純度の高いリサイクル品を生産する為にも不可欠な取組みになります。もう一度、各家庭に配布してある「家庭ごみの分け方・出し方一覧表」をご覧ください。分別排出されるようよろしくお願いします。なお古紙類の排出について、次のとおりご協力をお願いします。

▼菓子箱など、比較的厚紙で出来ているものでダンボールに属さない紙製容器は、「雑誌・本」


に混入させて排出してください。

▼チラシ類は、新聞紙に混入させて排出してください。

▼古紙類を梱包する際は、紙ひもを使用してください。（ビニール紐等で梱包した場合は、収集いたしません。）

ペットボトルのラベルは、はがしてください



今まではペットボトルのラベルは、のマークがついていても、ペットボトルについた状態で排出しても回収しておりましたが、4月からは、より純度の高い資源ごみとして回収するために、ペットボトルからはがし、プラスチック製容器・包装の回収日に排出してください。

■お問合せ先

▽市民生活部生活環境課 ☎62-1110・1117

▽各支所市民福祉課（台川支所☎78-2113／森吉支所☎72-3115／阿仁支所☎82-2113）

▽クリーンリサイクルセンター ☎63-2343

市街地の活性化に向けてシンポジウムを開催

★2/25(日)

▼まちの賑わいづくり事業推進委員会▲

今月25日、中心市街地の活性化を目的として「まちの賑わいづくりシンポジウム」を開催します。

北秋田市では、大型店の進出や新たな消費者ニーズに対応した既存商店街の活性化が大きな課題となっています。そこで、まちづくりの専門家による講演会と先進地の事業者、市民らによるパネルディスカッションなどにより、賑わいのあるまちなか形成に向けたヒントを探ります。入場無料ですので、市民の皆様の多数のご来場をお待ちしています。

■日時 2月25日（日） 午後1時～3時30分

■会場 北秋田市交流センター

■内容

【基調講演】

講師：………弘前大学教授 北原啓司氏

演題「これからの中心市街地～まち育てのススメ」

【北秋田市中心市街地活性化アクションプラン紹介】

紹介者：………まちの賑わいづくり事業推進委員会座長 湊屋啓二氏

【パネルディスカッション】

▽コーディネーター

基調講演者 北原啓司氏

▽パネリスト（予定）

青森市新町商店街振興組合常務理事：………加藤博氏

北秋田市老人クラブ連合会事務局長：………亀山武次郎氏

鷹巣消費者の会会長：………山野内キミ子氏

主婦：………藤島好子氏

高校生（鷹巣農林高校2年）：………藤島舞氏

◎参加申し込み・お問い合わせ

北秋田市産業部中心市街地活性化対策室

☎62-6676